

平成三十年度文京区中学生俳句大会 特選・入選作品発表

特選【佐怒賀 正美 選】

「雪だるま作ろ」と君が叩くドア

第九中学校

猪瀬 あかり

坂道に描き足すごとく曼殊沙華

開成中学校

宮下 遥

言の葉を歌とし歌う秋の空

第九中学校

石崎 涼子

山終い雪と月日を積もらせる

第九中学校

染谷 日百合

コスモスに紛れて君を隠し撮り

第九中学校

安達 公香

特選【松澤 雅世 選】

秋空をくるくる混ぜる観覧車

第九中学校

勅使川原 恵実

幸せなみかんの皮をむく時間

第九中学校

三輪 茉凜

秋風が私に何か伝えてる

第九中学校

西田 紗織

ヒンヤリと体に染みる落とし水

第一中学校

東條 渉

大雪を夢見てねむる都会っ子

第九中学校

栗栖 純海

入選【佐怒賀 正美 選】

くちびるに触れる冷たさ金管楽器

第九中学校

行徳 ひなた

ぼくの声皆と重なれ秋の風

文林中学校

笹原 将仁

天高し私の心包み込む

第一中学校

竹萬 礼乃

昇りゆく優しい光りの秋の朝

第九中学校

染谷 吉法

かじかんだ手から放つバスケットボール

第九中学校

平尾 星藍

上からの降ってくる雪全部白

第九中学校

黒井 萌

秋空をくるくる混ぜる観覧車

第九中学校

勅使川原 恵実

秋の空苦勞の数だけ光ってる

第九中学校

安藤 万博

秋空は高く地球を包んでる

第九中学校

柴田 浩毅

秋晴れに外房線や青い海

第一中学校

佐藤 夏月

入選【松澤 雅世 選】

竜胆と紅葉の色は対となる

第六中学校

古川 徹

窓ぎわの光をあつめねむる冬

第八中学校

杉山 晴海

君とならてぶくろなんていらないうよ

第九中学校

羽仁 彩羅沙

合唱の美しきこと紅葉のよう

第九中学校

三浦 也美

紅葉散り遍く道が鮮やかに

第九中学校

遠藤 怜

秋風や時間を少し止めてくれ

文林中学校

大室 茉優

ふる雪の白さに染まる話し声

東邦中学校

橘 馨

坂道を下ると香る金木犀

第一中学校

今澤 友嗣郎

どんぐりに呼ばれていつもと違う道

第一中学校

宮谷 隼人

※入選者のご希望により掲載は九名となっております。

【佐怒賀 正美 総評】

選句していて気になったことを率直にお伝えしましょう。俳句では読者に「新鮮なこと」を伝えることが大切です。たとえば、こたつで蜜柑を食べる。ああ冬だと思う。夕日や紅葉に赤く染まるように感じる。冬の朝は寒くて起きるのが辛い。これらは、皆が同じように感じることですから平凡であって、「新鮮」ではありません。俳句が求めるのは、季節を感じながら、日常の新鮮な感動を詠むことです。また来年のご応募を楽しみにしています。